

当期の概況（連結）

当中間期の売上高につきましては、世界的な半導体市場の低迷により前中間期比7%減の2,900億円となりました。

損益につきましては、営業利益は、前中間期比90%減の9億円と黒字を確保したものの、経常損益は、前中間期37億円の利益に対して33億円の損失となり、中間純損益は、株式市場の低迷により投資有価証券等評価損143億円を計上したため、前中間期20億円の利益に対して96億円の損失となりました。

セグメント別概況

情報部門

ATMやプリンタが堅調に推移し、外部顧客向売上高につきましては、前中間期比5%増の1,537億円となり、営業利益につきましては、原価低減効果もあり、前中間期比3倍強の28億円となりました。

通信部門

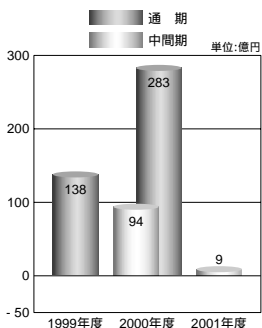
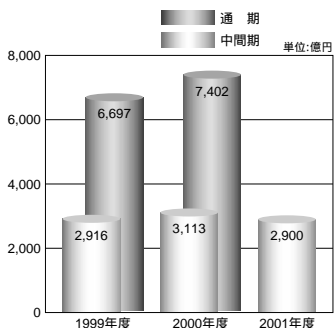
ADSL拡大によるISDN用交換機の需要減退や、米国通信市場の過剰投資による投資需要減退により、外部顧客向売上高につきましては、前中間期比16%減の543億円となり、営業損益につきましては、前中間期5億円の利益に対して25億円の損失となりました。

電子デバイス部門

PC向汎用DRAMからの撤退やロジック・システムLSIへの注力により、市況に影響されない事業構造を指向してきましたが、半導体市場は予想を越える厳しい状況となりました。そのため、外部顧客向売上高につきましては、前中間期比21%減の663億円となりましたが、営業損益につきましては、前中間期比56%減の60億円と黒字を確保いたしました。

売上高

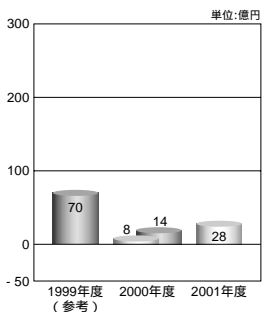
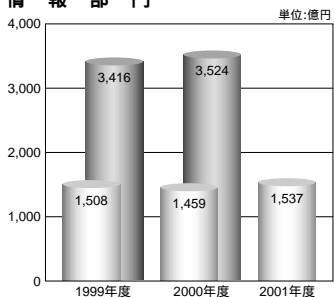
営業利益



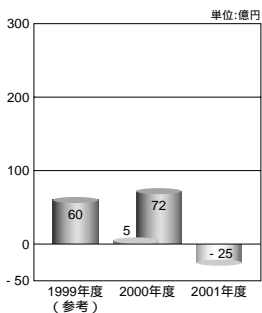
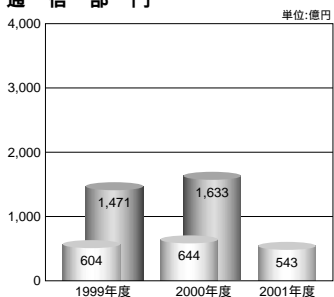
外部顧客向売上高

営業利益

情報部門



通信部門



電子デバイス部門

